

—特集—

和紙と暮らす

水量が多く、流れが緩やかな
小田川は、古くから内子町の暮
らしを支えてきました。手漉き
和紙もまた、小田川に育まれた
産業の一つ——。かつては和紙
の原料になるコウゾやミツマタ
が自生し、川のあちらこちらで
コウゾなどを洗う人々の姿が見
られたそうです。

何百年も私たちの生活の中に
溶け込んできた和紙ですが、經
済の大きな流れの中で需要が減
り、職人の数も減っています。
一方で、これからも私たちの町
に和紙の文化を残そうと、新た
な風を吹かす人々は増えてきて
います。

今回の特集では、受け継がれ
てきた技術や和紙の魅力を知る
人たちに話を聞きました。
世界に誇れる技術や伝統を残
すために、暮らしの中に和紙を
取り入れること、少しだけ考え
てみませんか——

今も生きる 伝統と技術



大きな簾桁をリズミカルに動かす稻月さん。簾桁の上で跳ねる水も美しい

この地で1000年続く和紙文化

和紙を漉く「簾桁」の上

で水が跳ねる音が、大きな工場内に静かに響いています。

作業をしているのは、この道60年のベテラン・稻月千鶴子さんと、入社5年目の成見優子さん。伝統工芸士にも認定されている稻月さんは「昔は工場いっぱいに人が並んで、競うように和紙を漉いて、にぎやかやつたんよ」とかつての盛んな産業の様子を語ってくれました――。

大洲和紙の歴史

「大洲和紙」として知られる内子町の和紙の歴史は古く、

1000年以上も前から漉かれていたといわれます。本格的に栄えたのは江戸時代の宝暦年間(1751~1764年)。和紙が大洲藩の専売品になると、保護奨励を受けて発展します。明治時代になり、いったんは需要が激減しますが、明治中期頃からミツマタを原料とした「改良半紙」が開発され、勢いを盛り返します。小田川の豊富な水に恵まれ、明治時代末期には約1400軒の製紙戸数があったそうです。その後は洋紙の普及で減産の道をたどり、現在では天神産紙工場と和紙工房ニシオカの2軒だけが残るのみです。



作業中の宮脇さん。蒸気で熱したステンレスの板に和紙を貼り、馬のたてがみの刷毛でしわを伸ばす

高い品質を追求して数百年。
その和紙は伝統工芸と呼ばれ
世界に誇れる技術となつた――

1枚の和紙ができるまで

和紙の原料はコウゾやミツマタなど。それらの樹皮を蒸して、晒し場で水に晒し、アグ抜きをします。その後、ちりを取り、ビーターという機械で纖維を細かく碎きります。さらに過槽でちりを取つて、ようやく紙料ができるがります。漉き槽に水、紙料、のりを入れて、よく混ぜてから一枚ずつ簾桁で漉きます。これを乾燥して、裁断。選別してやつと1枚の和紙が生まれます。

60年の道の重み

上森初子さんは、稻月さんと同じく約60年、この工場で働いています。上森さんは「昔から働いている人は分業制。私は乾燥の作業をずっと続けています。機械の中に蒸気が流れて

いて、夏は暑くて大変なんですよ」と話しながら作業を続けます。「薄い和紙はいまだに難しい」と謙遜しながらも、テンポ良く和紙を乾燥機に貼り、刷毛でさつとしわを伸ばす熟練の技を見せてきました。稻月さんは「私たちが若い頃は手漉き和紙が一大産業で、賃金が良かつたけんね。他の和紙生産地が世界遺産に選ばれるような、伝統的な産業になるとは思つてもなかつたたい」と笑います。

受け継がれる技術

「うまくいかないことが多い、まだ未熟です。薄い紙のときはよく失敗します」と話すのは、上森さんと並んで作業をする、入社3年目の宮脇佳奈さん。伝統工芸の職人に憧れて、この世界に入ったそうで「自分

たちよりも若い人に、こういう仕事をあることを知つてほしい。私は伝統的な産業に関わっていることに誇りを持つています。自分だけの力では難しいけれど、頑張つてつなげたい」と思いを語ります。成見さんは「体力を使つけれど、楽しいから続けられています。伝統工芸をしていくという意識はありませんくて、家が近いから選んだ」と無邪気に話します。しかし技術の話になると、決められた重さに和紙を漉く難しさを挙げ、「紙の大きさや厚みが変わると、重さを合わせる感覚が狂う。稻月さんはすぐに合わせるので、そこがすごい」と目を輝かせます。「若い子が入つたけん、張り合いがある。もう少し頑張らなければいけんね」とベテランの2人が



伝統×伝統 GILDING WASHI

「まだ稼げる産業になつてないのが課題。いい物を作るとは大切だが、産業として成り立つことも重要。自分たちの頑張りが和紙産業を守ることにつながる」と力強く語った齋藤さん。世界を見据えた挑戦は、まだまだこれからも続きます。

未来と世界を見据えて

壁紙やデザイン和紙、はがき、紙風船など、幅広い商品を開発する齋藤さんは「デザイン次第で和紙の用途を広げることができます。有名なアーティストやキャラクターとのコラボレーションも実現した。それによつて若い世代にも和紙に興味を持つてもらえた」と手応えを語ります。

「一流のデザイナーと仕事ができて刺激を受けています。10月にも展覧会があるので、新しい壁紙づくりに力を注ぎたい」。国内外で積極的に宣伝と販売することで、内子町と和紙の魅力を世界に広げています。

デザインでも、計算と偶然が入り交じつて、出来上がりが毎回違うことも面白い」とその魅力を語ってくれました。

広がる可能性

【問い合わせ】

- 株五十崎社中
- ☎ 0893(44)4403
- ✉ www..ikazaki.jp/
- 天神産紙工場
- ☎ 0893(44)2002

天神産紙工場に展示場があるので、ぜひ見に来てください。



和紙とギルディングの出会いが世界への扉を開いた

手漉き和紙に新たな輝きを—

一人の若者に人生を変える決心をさせた、ある一つの出会い。

IT関連の仕事から職人に転身した齋藤宏之さんに

日本とフランスの伝統が融合した、ギルディング和紙の魅力を聞きました。

五

十崎地域にある古い酒蔵の裏に足を運ぶと、少し小高くなつた場所にひつそりと立つ工房—。

「本当はほとんどが企業秘密なんですよ」。そう話しながら、笑顔で案内してくれたのは株五十崎社中の齋藤宏之さんです。

齋藤さんは神奈川県出身。NTTインターネットに入社し、東京都で勤務していました。しかしフランス人デザイナーのガボー・ウルヴィツキさんとの出会いをきっかけに転身を決意、五十崎で会社を設立しました。

以前は仕事の成果が見えず、仕事に対する喜びを感じなかつた。原点回帰のように、物を作り仕事がやつてみたくなつた。病んでましたね」と笑います。

輝くギルディング和紙

ギルディングはもともと額縁に於ける金箔装飾で、西洋絵画の歴史とともに育まってきた、伝統的な技術です。ガボーさんは、その技術を応用して壁紙を作るデザイナー。フランス国家遺産企業の認定を受けるギルディングの達人です。

「JAPANブランド育成支援 和紙産業を活性化するために

事業」の採択を受けた商工会が、平成20年から2年間、ガボーさんを招待することに—。「和紙とギルディングの融合に、和紙を世界へ発信する力を感じた」と齋藤さんが手を挙げ、新しい和紙づくりの挑戦が始まりました。

「ギルディングの原理は砂絵と同じ」、そう説明しながら制作を始めた齋藤さん。まずデザインが描かれた型枠と和紙を重ねてのりを丁寧に塗ります。そこに金属箔をまき、軽く叩いた後にブラシでこすると、のりがついた部分に鮮やかな模様が浮き上りました。「和紙の優しさと金属の固さ、相異なるものが不思議と調和する。同じデ



株五十崎社中
—Saito Hiroyuki—
代表取締役 齋藤 宏之さん



1_「新しいデザインの開発中です」とギルディングの技を披露してくれた 2_自然と調和する「五十崎社中」の看板 3_佐藤オオキ氏がデザインし、五十崎社中が制作した和紙の皿。27年のミラノ万博に展示された 4_大きな機械を使ってのり付けの作業をする齋藤さん 5_(株)cosmosの内田喜基氏などとのコラボ作品



自然派工房なるた
Naruta Sachiko
成田 幸子さん

和紙でイヤリングなどのアクセサリーを作っています。染まり具合を生かした模様が特徴で、自分で紙を染めることもあります。和紙には一枚一枚に味わいがあり、その良さに併せて作品を作るのが面白いです。柔らかさや繊細さも和紙の魅力。私の作ったアクセサリーで、その魅力が伝わればいいなと思っています。

自分自身も今まで和紙を使ってなかったという反省があります。大切な文化を私たちの時代で途絶えさせないために、自分たちが和紙を使うことから始めようと考えました。今は和紙創作展などで和紙の使い方の提案をしています。



要望でイヤリングをペンダントに変えることも可能。真珠を付けた作品もある



折紙工房千鶴
Okano Chizuru
岡野 千鶴さん

和紙を折った箸袋やポチ袋、行灯やおもちゃなどを作っています。買ってもらうよりも、「かわいい」と言ってもらえるのが一番うれしいです。一番のお気に入りは行灯。光を通した和紙はきれいで、洋紙では表現できません。

基本的な折り方は本などを参考にしていますが、気に入らないことが多いので、もっとかわいくしようとアレンジを加えています。結構難しくて、いつも試行錯誤。思ったとおりにできたときの達成感は格別です。

折り紙教室などの機会も増えました。作品や教室を通して、少しでも和紙の魅力を伝えたいです。



毎日折り紙をする岡野さん。アジサイはなんと1枚の和紙を折ったもの



とおん舎
Wake Miho
わけ みほさん

川と山に囲まれた霧囲気を気に入り、数年前に内子町五十崎に引っ越してきました。

昔からハンドメイドが好きで、今の作品を作り始めたのは3年くらい前。近くの天神産紙工場で、和紙の端切れセットを見つけるのがきっかけです。最初は子どもと遊ぶ道具でしたが、遊ぶうちに、ちぎり絵をブローチにすることを思い付きました。染めた和紙をちぎって貼り合わせるので、和紙独特の作品になります。素朴な風合いで、私も気に入っています。

大好きな自然を題材に作品を作っています。和にこだわらなくともいいのも、和紙の良さですね。



ちぎり絵に、さらにペンで絵を描く。透明な樹脂で表面を固めて完成



とっさん工房
Masaoka Toshio/Yachiyo
正岡俊雄さん・八千代さん

内子手しごとの会のメンバーで、和紙の染色などを手掛けています。主人が型枠を作り、私が染めています。元々はすし屋ですが、私が小田商工会女性部で染め物を始めたのがきっかけで、今はそちらが本業。手先が器用な主人に切り絵をお願いしたら、性に合っていたのか、きれいな仕事をしてくれます。

子ども狂言の衣装は勉強になりました。初めての染め方や破れやすい部分の工夫など、挑戦の連続でしたが、布とは違う、和紙の可能性を感じられました。テレビでも紹介されるようになりましたし、皆さんから声を掛けてもらえて、それが生きがいになっています。



染め物の型を作る俊雄さん。子ども狂言の衣装は正岡夫妻が染めた和紙

KAMIWAZA 内子の紙技

400年の歴史を持つ「いかざき大凧合戦」をはじめ、内子町に根ざした数々の和紙の文化——
その和紙に魅力を感じ、新しい作品を生み出す
「紙技」を使う職人が、内子町にはたくさんいます。
そんな皆さんに、和紙の魅力について話を聞きました。

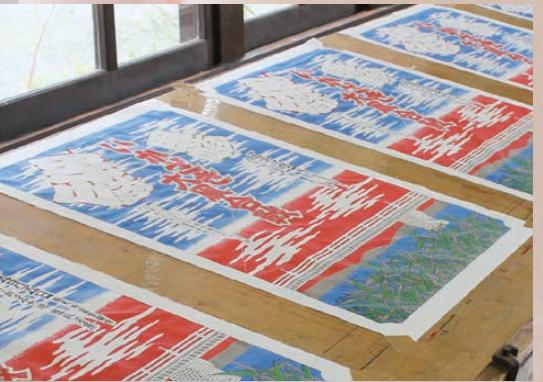
CULTURE



数百統の大凧が青空を舞う「いかざき大凧合戦」



内子手しごとの会が制作する「内子彩あんどん」



版画家・山田きよさんがデザインする和紙のポスター



呼吸する和紙の
「和紙モービル」
(株)りくう

世界に誇れる手漉き和紙の技術と伝統。障子や襖のない海外で和紙を売る挑戦。そして和紙の優しい風合いや素朴さを生かした品々——。和紙に触れる機会が少なくなった現代で、内子町では、こんなにも身近に和紙があります。

しかし文化が根付いていても、私たちが和紙を選ばなければ、産業は簡単に失われてしまします。みんなが安価な洋紙を選び続けければ、和紙産業は必要がなくなってしまうのです。

手漉き和紙職人の道を選んだ宮脇佳奈子さんは「良質の和紙は長持ちするので、結婚式や出産のときに書く手紙など、記念に残るものに使つてほしい。和紙には優しい気持ちが伝わる、そんなあなたたかさがある」と提案します。ささやかでも、和紙の良さを認め選ぶ人が増えることで、和紙産業は生き続けることができるという思いです。

皆さん、暮らし中にもつと、和紙のある時間を作りませんか。素晴らしい伝統と技術を、この町で守り続けるために——



地域おこし協力隊が和紙の魅力を伝える店舗「nek i」をオープン

和紙と内子を「ねき(近く)」に感じる店に——



地域おこし協力隊
Watanabe Mayumi
渡邊 真弓さん

地域おこし協力隊の活動を通じて、和紙の魅力や可能性を感じ、この店を開きました。和紙は昔みたいに日常的な物ではなくなってしまいましたが、今の生活にあった使い方を店を訪れた人に見つけてほしいし、私自身も発見して伝えたいと考えています。

店は内子本町商店街の尾崎糸店の一部を借りています。昔は「紙役所」があった場所です。人通りも多く、歴史があるので、和紙の魅力を伝える役割を果たせるので

はと期待しています。

和紙に触れる機会を増やすために、月1回のワークショップも開いています。水引や年賀状などを作りますので、町の人たちに参加してもらえたなら、うれしいです。

7月にオープンしましたが、まだまだ店は未完成です。いろいろな人の意見や要望を聞いて、店を作り上げたいので、ぜひ一度足を運んでください。私たちの暮らしに溶け込む和紙を、一緒に探しましょう。



「nek i」で開催するワークショップのお知らせ

水引づくり

~ご祝儀用の飾りづくり~

- 日時 10月9日(日)
- 費用 500円／2個
- ※のし袋は別売りです。
- 所要時間 約30分

ギルディング

~和紙でポストカード作り~

- 日時 11月20日(日)
- 費用 540円／1枚
- 所要時間 約30分

筆文字年賀状

~2017年の年賀状を作ろう~

- 日時 12月4日(日)
- 費用 800円／1個
- 所要時間 約40分

※時間は全て午前11時～午後4時まで

【申込・問い合わせ】 neki ☎ 050 (5897) 2016



1_東京から来たという3人組。ポストカードを手に「かわいい」と喜んでいた 2_和紙商品が並ぶ店内